

埼玉親善大使レポート

2021 年度高校生留学コース 高橋真子

留学先：オーストラリア、ゴールドコースト

私は 2022 年 7 月後半から 2023 年 4 月の頭まで約 8 カ月間オーストラリアのゴールドコーストで留学しました。私はこれまで国外に一度も出たことがなかったので、“海外”というものに対してとてもマイナスなイメージを持っていました。しかし今回の留学を経て、自分の価値観や考え方を刺激され、今でもあの 8 か月間は夢だったのではないかと思うほど充実した留学生活を送ることができました。オーストラリアは日本と季節が真逆ですが、時差は 1 時間の違いなので留学を終えた今でも現地の友達と電話しメールをとるなど気軽に連絡を取り合うことができるので私がその場にいたという実感を日々感じています。



①留学を決意した理由

上記に述べた通り、私は“海外”に対してとてもマイナスなイメージを持っていました。一番記憶に残っているのは「いい腕時計をした観光客は腕ごと切られてもっていかれる」と母に聞かされたことです。今考えてみるとどの国のどこの地域の話をしているんだと疑問に思いますが、日本しか知らなかった幼い私は“海外”をひとくくりにし、海外は危険で危ない人がたくさんいるのだと思い込んでいました。

留学を決意した理由はたくさんあります。一番は語学力向上ですが、他人の視線を気にする癖を治したいという気持ちもありました。思春期でもあった私は 1 人でも生きていけることの証明や母の話を否定したい気持ちなど、少なからず家族に対しての反抗的な心情はあったと思います。

②現地の生活

私がオーストラリアで最初に感じた違いは時間の使い方です。経由地点のケアンズ空港で、荷物の預入の際、スタッフさんがコーヒーを片手に同僚の方と雑談しながら仕事をしていました。日本ではみられないその光景にとても衝撃を受けたのを覚えています。その後もオーストラリアでの働き方の違いに何度も驚かされました。公共交通機関が時間通りに来ないのは有名ですが、現地の人も常に時間を気にしている様子もなく、私の友達は必ず集合時間から30分は遅れてきます。日本の生活に慣れきっていた私は、時間にとてもルーズな文化に初めは苛立ちをも感じましたが、逆に私が必要以上に時間に捉われていることに気づきました。何をすることも頭の片隅には必ず時間というものを気かけ、それは今自分が行っていること、楽しんでいることの妨げになっていました。アラーム、電車、学校のチャイム、仕事のミーティング、友達との集合、ご飯。私たちの生活を常に急かしてきたのはいつも時間です。日本の美德とされている時間厳守の文化は、自分たちの充実した生活を常に監視し圧をかけてくるものだと考えてみると少し恐ろしく感じます。

オーストラリアは日本と比べて物価がとても高く外食などもより高価となっています。そのため、夕食は家で作るのが主流のため、スーパーやコンビニでは日本で売っているお弁当やおにぎりなど、既に加工されているものはあまり見られません。ここからもオーストラリアの時間の使い方の違いがよく感じられます。日本でそのような加工食品が多くみられるのは買う側のニーズ答えているからです。つまり、食事を作るという時間をとらず、またはとれず、既に完成されているお弁当のようなもので手短かに済まそうという人が多いことが分かります。これは日本人のワークライフバランスが充実していないことも考えられるのではないのでしょうか。



③学校での生活

私の学校は他の学校と比べて留学生の数がとても少なかったため、現地の子どもたちの学校生活をより身近で知ることができました。授業は生徒参加型で、先生の話や授業内容を書い

てメモを取るというよりは、先生やクラスメイトとディスカッションしながら、自分の考えや課題を提出するなどが主流でした。そのため個人の考えがどれだけ題に沿わない、または適切ではないとしてもその意見は尊重され自由な考え方の発言を実現しています。私は自分の意見を言ったり持ったりすること自体慣れていなかったのですが、このような授業に対してとても苦手意識がありましたが、人と違う考え方は当たり前であり、大切なのは自分が間違っているかではなく自分の考えに自信を持てるかだと学びました。

お昼ご飯は普通果物やお菓子をもっていくので、日本のお母さんが毎日我が子の栄養を考えて作るお弁当や均等に子供の健康と身体の成長を考慮した給食などの素晴らしさをとても実感しました。日本の「いただきます」文化はこれからも意味や目的を理解したうえで受け継がなければいけないものだと思います。

オーストラリアは多民族多文化なので LGBTQ に対する理解も寛容な国でした。私の友達の半分は同性愛者であり、学校でも街中でもそのようなカップルは多く見られ受け入れられています。帰国前の4月では虹色に飾った車や衣装を着る人たちが町中をずっと走り回っていたり行進などをしていたりしました。日本の LGBTQ に対する受け入れや取り組みは遅れていると思うので、少しでもいろんな考え方を持ったいろんな人が受け入れられるような国にしていきたいです。

④埼玉親善大使として行ったこと

たくさんの人と交流していく中で、必ずどこから来たのか聞かれます。その度に「日本の埼玉県」と答えてきましたが、埼玉県を知っている人はごく僅かでした。やはり一番認知されているのは東京であり、日本に何度も訪れたことがある人でもその真上に位置する埼玉県のことは知らなくとも寂しい気持ちになりました。アニメが好きな子には日本の国民的アニメであるクレヨンしんちゃんは埼玉県が舞台だということ、日本で一番大きいイオンというショッピングモールは埼玉県にあること。少しでも私の住む地域に興味を持ってもらえるようによりインパクトの大きいことを伝えました。さらに私が思う埼玉県の好きどころは交通の便が整っていて、おだやかで、娯楽もあり、住みやすいことです。日本について聞いてくる人たちに対して、埼玉県はとても住みやすい地域であることを強調しました。私の友達は既に埼玉県のことを認知し、日本に来る際は必ず訪れることを約束してくれました。「日本の埼玉県」が海外でも通じるようにこれからも埼玉県の良さを広めていきたいです。



たくさんの人と出会い、さまざまな価値観に触れ、当たり前が当たり前ではないことを知り、人として成長することができました。この留学を支援し、埼玉県を見つめなおす機会をくださった埼玉親善大使の活動に携われたことをとても嬉しく思います。高校生の自殺や、悲惨な事件を最近よくテレビで見かけます。電車や町中で疲れ切っている大人たちをよく見ます。私はもっと日本人に自分のために生きてほしいです。常に誰かのために何かを必死に頑張っていることは決して悪いことではないけれど、自分自身を大切にすることが何よりも優先すべきことだと考えています。世間の評価が自分の価値ではないです。テストの成績や内申、ましてや学校の名前が自分の価値ではないです。給料の額が自分の価値ではないです。私はこの留学で他国を知り、自分自身についても見つめなおすことができました。今後はこの経験をいかし、今回の留学で気付いた日本の社会問題に取り組み、さらにこの国の文化などの素晴らしさを国内をはじめ多くの人に発信するグローバルな人材になりたいです。このような貴重な経験を高校時にできたこと嬉しく思い、私の選択を否定せずずっと支えてきてくれた母、支援してくれたこの埼玉親善大使の活動、オーストラリアで関わってくれたすべての人に感謝を伝えたいです。